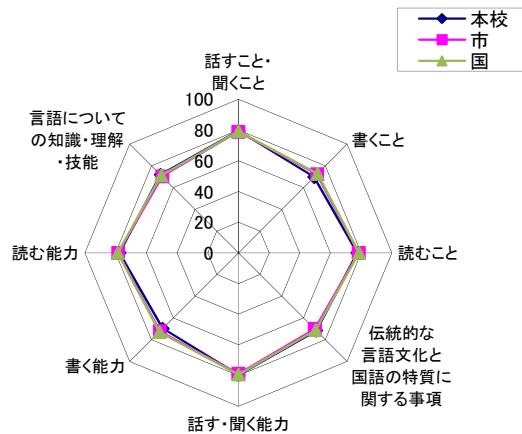


宇都宮市立宝木小学校第6学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

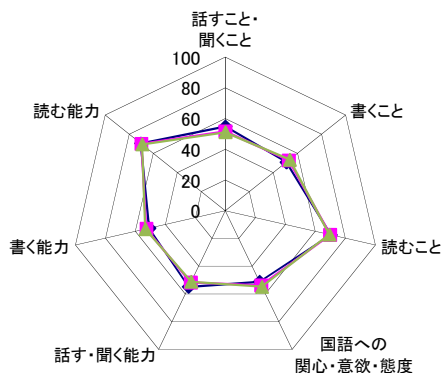
【国語A】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	話すこと・聞くこと	79.4	78.8	79.2
	書くこと	69.8	72.4	72.8
	読むこと	77.5	78.3	78.5
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	71.7	70.3	71.1
観点	国語への関心・意欲・態度			
	話す・聞く能力	79.4	78.8	79.2
	書く能力	69.8	72.4	72.8
	読む能力	77.5	78.3	78.5
	言語についての知識・理解・技能	71.7	70.3	71.1



【国語B】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	話すこと・聞くこと	54.9	51.7	51.1
	書くこと	50.8	52.7	53.4
	読むこと	70.3	69.9	69.3
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項			
観点	国語への関心・意欲・態度	51.2	53.8	54.7
	話す・聞く能力	54.9	51.7	51.1
	書く能力	50.8	52.7	53.4
	読む能力	70.3	69.9	69.3
	言語についての知識・理解・技能			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	○A:市の平均値を0.6ポイント、全国のを0.2ポイント上回っている。「どのような話し合いをしているか。」という少し難しい問いではあるが、前後の関係を理解できている児童が8割近くであった。 ○●B:市の平均より、3.2ポイント、全国の平均より、3.8ポイント高い正答率ではあるが、図やグラフから分析することについて苦手な児童も多い。	・授業で行っている「大切な部分をメモする。」ことや「話し合いの中心は何か。」を考えることを意識した授業を展開していく。 ・国語の問題で図やグラフを用いた問題に慣れていない傾向がある。今後、時間をかけた丁寧な読み取りを授業の中で心がけていく。
書くこと	●A:市の平均より2.6ポイント低く、全国より、3.0ポイント低い。書き直した文章(ゲームのルール説明)の前と後を比較して、答える問いであるが5択から2つを選ぶ形式に戸惑ったのではと考えられる。 ●B:条件を満たしながら記述するという事に抵抗を感じていることがうかがえる。	・2つ以上の文章を比べ、その違いと伝えやすくするための工夫を捉える指導をしていく。 ・「書く」という課題に、キーワードをつけて書く、表や図からわかることを使って書くなどの条件付きの課題で文を書く指導を加えていく。
読むこと	●A:市の平均より0.8ポイント低く、全国よりは、1.0ポイント低い。ここでも表と図を関連付けて読むことや複数の条件が重なることで正答を導き出すことが困難な児童が多い。 ○B:市の平均より0.4ポイント、全国平均と比べても1.0ポイント高い。特に資料を組み合わせる選択する問題について「どのようなことが知りたいと考えて、資料を選んだか。」の問いに高い正答率を示した。	・『話すこと・聞くこと』『書くこと』でも記述したが、表や図から必要な情報を読み取ることに抵抗を感じる児童が多い。文章からだけの読み取りだけでなく、生活場面で考えられる図表を加えて提示する授業を組み入れていく必要がある。 ・文章を読んで、その前後関係をつかむ力に優れている。日頃から取り組んでいる読書活動の成果と考えられる。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	○市の平均より、1.4ポイント、全国平均と比べても、0.6ポイント上回った正答率であった。 ○ローマ字の読み書きについては、市や全国の正答率を大きく上回った。 ●漢字の読み、「書き」については、「相談」の正答率は高く、「種」は若干低い。「読み」では、「快晴」の正答率が低かった。	・今後も朝の学習の時間や日々の課題として、漢字練習を繰り返し行い、習熟を図っていくとともに、熟語調べやことわざ調べを進んでできるよう国語辞典がすぐ手に取れるように学習環境をさらに整えていく。 ・漢字を読む力を向上させるために、6年生であっても音読を重視した指導をしていく。